様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2011～2015
課題番号：２３３３０２７０

研究課題名（和文）自己理解・他者理解を核とした生涯発達における発達障害者の心理教育的支援環境の構築

研究課題名（英文）Psycho-educational support system for person with developmental disorders

研究代表者
田中　真理（TANAKA, MARI）

九州大学・基幹教育院・教授

研究者番号：７０２７４４１２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　14,000,000円

研究成果の概要（和文）：発達障害児者を対象に、(1)自己理解と他者理解の特性の把握と、その発達に対応した支援のあり方を解明した、(2)生涯発達の観点から、家庭・学校・地域を含む多機関連携のあり方を検討した、(3)発達障害のある当事者を含め、すべての児童生徒学生が、多様な人々で構成される共生社会を担う一員として、グローバルな視野と人間性を備えた人材の育成であることをふまえ、周囲の子どもや人々をこのような人材としての育成のありかたを示した、(4)自然災害における災害ストレス反応の実態を把握し防災体制として求められる観点を見出した。

研究成果の概要（英文）：(1)Adolescents with developmental disorders tended to develop negative self-understanding through interactions with others and positive self-understanding when they did not have relationships with anyone;
(2)The role of special educational needs coordinator is to construct a school support system. The coordination consists of two categories: “the agent for control” and “the expression of intention with flexibility”.(3)It is suggested that neither educating nor training, but improving personal contemplation is the key to developing normal adolescents to be natural supporters of people with developmental disorders. (4)It is suggested that we should to remove physical and psychological barriers, to develop a better educational system to lessen educational vulnerabilities during future disasters and to provide more public education about the special-needs community during the Great East Japan Earthquake.

研究分野：発達障害学

キーワード：発達障害　自己理解　他者理解　生涯発達　心理教育的支援

１．研究開始当初の背景

国連障害者権利条約の批准に向けて、発達障害者支援法をはじめ障害者差別解消法施行をめざした国内法の整備が進められている。このような法的動向を背景に、障害のなかでも特に体制整備が遅れている発達障害者への支援については喫緊の課題である。この課題解決を図るべく、発達障害者の特性とその支援に関する基礎研究および実践臨床研究が求められている。以下、４つの観点から、研究開始当初の研究状況と課題について示す。

（１）自己理解・他者理解を対人関係づくりの「核」とすることの重要性：発達障害者の認知的側面・行動的側面のみならずパーソナリティ的側面も含めた自己理解について多角的分析を進める必要がある。これまでHoza ら(2001)が強調する positive illusion の存在を実証的に示し、認知的な評価である自己評価と感情的評価である自尊心とを分けて把握したうえで相互の関連も検討されている。さらにこの関連の媒介要因として原因帰属様式を指摘し（田中;2009,2010）、対人関係づくりのために、これらの観点の必要性を示していくことが求められる。また、自己理解の在り方は二次障害によって大きく変化し(Slomkowski ら;1995)、特に青年期・成人期においては自己認識欲求と障害告知との関連で検討する必要がある(越智;2006)ことなど、心理的健康を支える際に発達障害者特有の発達的軸や、想起的自己と概念的自己(Neisser;1993) のつながりの脆弱性(滝吉;2010)を考慮し、これらの点からの検討が課題として残されている。

また、自己理解と他者理解は表裏の関係にある。特に、他者理解に関して臨床研究と基礎研究の知見を包括した視点が欠けている。他者理解に関しては児童期では心の理論(Baron-cohen;1985 他)が主に検討されてきたが、近年、持っている認知力を実際の対人場面で「自発的に」用いるための Enactive Mind(Klin;2004)が注目されており、これこそが児童期後期以降においての集団場面の対人関係構築に重要であると指摘されている。そこで対人関係づくりを支える他者理解を捉える視点として、幼児期における「自発的な」他者意図操作、児童期における「自発的な」他者感情の理解と共感性の表出、およびナラティブの形成、思春期以降の「自発的に」場をよむことの特性について検討することが課題である。

（２）生涯発達・多面的視点からの心理教育的支援環境作り：周囲の支援も視野にいれた統合的アプーチを試み、家庭および小・中学校における調査研究を進められてきている(小島･田中;2007 他)。しかし、家庭においては父親やきょうだい研究が少ないこと(藤本ら;2001)、学校においては周囲の児童生徒学生が特別支援教育をいかに理解しているかに関する研究が少ないこと(武重;2010)、地域の NPO などとの連携に関する実証的研究の少なさが指摘されている(佐藤;2010)。また、学齢前から就労にいたる各時期の移行支援に関する検討が充分ではない。なかでも高等教育機関における支援実績は乏しく、セルフ･アドボガシーや合理的配慮(reasonable accommodation)の概念を背景とした欧米に比較し遥かに遅れている現状がある(片岡;2009)。これら先進的取り組みもふまえ、対象を広げることにより（母親＋父親,きょうだい、校内＋校外 NPO、当事者＋周囲の児童生徒学生）、生涯にわたる多様な社会的環境の連携を目指した統合的アプローチについて包括的検討を行なうことが課題である。

（３）心理教育支援の実践的有効性を示すためのプロセス研究＋効果研究：発達障害児はいじめ・不登校・虐待などによる心理的外傷体験にさらされる高リスク児といえる現状があり(杉山;2007)、二次障害への支援は急務の課題のひとつである。そのための介入方法として、アクション・メソッドのひとつである心理劇的ロールプレイング（TANAKA;2005,滝吉･田中;2009）や､自己理解・他者理解の深まりが構造化された対人関係ゲームを考案し(田中ら:2010)、実践が試みられてきている。また、「笑い」や、「ユーモア」がリジリエンス（心の回復力）を活性化させ円滑な対人関係を維持する機能(クライン;1997)に注目した新たな心理教育的集団活動の実践も行われている（田中ら:2008）。このような実践は、国内外において非常に少なく(Werth ら;2001,高原;2009)、新たな支援理論モデルの構築が期待される領域である。しかし、実践方法・評価観点・支援の有効性の有機的な関連性を解明するに至っていない。心理教育的介入における実証的研究の方法論としては、プロセス研究と効果研究とに大別でき（岩壁;2008）、これらの方法を用いて評価システムを構築することが課題である。

（４）本研究初年度に東日本大震災による被災は、多くの教訓をもたらした。発達障害者の災害時対応・防災体制に関する研究をふまえ、今後の支援体制構築に活かすことが求められている。

２．研究の目的

発達障害のある児童生徒学生を対象とした特別支援教育において、①「自己理解と他者理解の発達を対人関係づくりの核」とし、自己理解・他者理解の特性の把握と、②その発達に対応した支援の実践的有効性の評価システムの解明、③ある年齢段階のある発達障害へのある特性に対する一面的な支援に留まることなく、生涯発達的視点に立脚した時間的つながりや、家庭・学校・地域を含む多機関連携の視点にたった縦横の軸をつなぐ「真の」有機的支援のあり方の検討、④特別支援教育の真のねらいは、発達障害のある当事者を含め、すべての児童生徒学生が、多様な人々で構成される共生社会を担う一員

として、グローバルな視野と人間性を備えた人材の育成であることをふまえ、周囲の子どもや人々を上述のような人材としていかに育成するかに関する実証的研究、⑤自然災害における災害ストレス反応の実態を把握し防災体制として求められる観点を見出すこと、を目的とする。

３．研究の方法

（１）自己理解・他者理解の観点からの支援：(a)自己評価と原因帰属との関連：幼児期・児童期における自己評価と自身のパフォーマンスに関する原因帰属との関連、(b)自己評価と自尊心との関連:思春期における両者の相関と自己受容との関連、(c) 自己認識欲求の発達的変容：青年期におけるアイデンティティの確立と障害告知との関連、について面接調査を行う。(d)「自発的な」他者理解： 他者特性の把握、場をよむ力、他者感情の理解や共感を「自発的に」行なうことにおける他者理解課題を用いた実験研究を行う。

（２）生涯発達・多面的視点からの心理教育的支援環境作り：(a) 学校おいては、これまで検討対象としてきた校内の特別支援教育コーディネーターに加え、コーディネーターの役割を担っている校外のNPO機関を対象に、学校内の連携や学校外の社会的資源との連携の実態を把握する。(b) 家庭においてこれまで検討対象としてきた母親に加え父親・きょうだいを対象として面接調査を行う、(c) 学校全体(小・中・高・大学)の教育力を高めていくために障害のある当事者の周囲の児童・生徒・学生を対象に、障害のある当事者への関わりや特別支援教育への関心・認識について面接調査を行う。(d)幼児期から就労に至る時間軸に沿った移行支援のあり方について事例研究を行う。（３)支援プロセスおよび効果の解明：心理教育的支援を継続して行い、心理劇的ロールプレイを用いた集団的心理援助による介入研究を行う。（４）災害時の支援体制：東日本大震災被災障害者及びその家族を対象に、震災体験について面接調査を行う。

４．研究成果

（１）対人関係における自己理解と他者理解の発達特性：幼児期・児童期における自己評価と自身のパフォーマンスに関する原因帰属との関連、思春期における両者の相関と自己受容との関連、青年期におけるアイデンティティの確立と障害告知との関連がみられた。他者理解については、 他者特性の把握、場をよむ力、他者感情の理解や共感を「自発的」に行なうことにおける特異性がみられた。

（２）発達特性に対応した支援の実践的有効性の評価システムの解明：自己理解・他者理解の変容プロセスと心理的適応との縦断的関連性を実証的に解明した。その際、言語＋行為、笑いとユーモア体験による関わりを重視し、自己の対象化と相対化という点から自己理解の深まりがみられた。(a) 自己理解・他者理解が相互に関連して深まっていくことが示された、(b) 集団内メンバーへの共通性と差異性に関する認識の変容がみられた、（ｃ）自発性の変容、(d)集団の凝集性、の点から解明し、次の有効な支援へとつながる評価の観点が見出された。

（３）家庭・学校・地域を含む多機関連携の視点の解明：対象児の障害特性に関する認識やその変容プロセス、家族自身のニーズ等が明確となった。調整機能の内実を明確にするとともに、問題状況に対応するための連携機能を可能とする視点が解明されたなど、心理教育的支援環境作りの必要充分条件を明確に示した。

（４）共生社会を担う一員として、グローバルな視野と人間性を備えた障害者支援人材の育成：合理的配慮(reasonable accommodation)に対応した国外の先進的取り組みの国内への汎用性について、国内の取り組みとの共通性と差異性が明確となった。

（５）災害対応・防災体制：障害者全体においては物理的脆弱性・社会的脆弱性・心理的脆弱性・教育的脆弱性がみられ、発達障害者においては特に心理的・社会的脆弱性の高さが示された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計１４件）　全て査読有り

（１） 松崎 泰・川住隆一・田中真理 (2016) 思春期・青年期の自閉スペクトラム症者における共感の特性：自己注視的・他者注視的認知過程に焦点を当てて,発達心理学研究,27(1),1-9.

（２）永瀬開・田中真理 (2015) 自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア体験の認知処理特性：分かりやすさの認知と刺激の精緻化の影響，発達心理学研究，26(2),123-134.

（３）永瀬開・田中真理 (2015) 自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア体験の認知処理に関する検討：構造的不適合の評価と刺激の精緻化に焦点をあてて，発達心理学研究，26(1)，35-45.

（４）中山奈央・田中真理・山崎透 (2013) 注意欠陥/多動性障害児の自己認識におけるポジティブ・イリュージョン-自己評価・他者評価・他者に映る自己評価の比較から-．児童青年精神医学とその近接領域，54(5)，539-551.

（５）李熙馥・田中真理 (2013) 自閉性スペクトラム障害者におけるナラティブの特性：フィクショナルナラティブの構成と行為の側面に焦点を当てて．発達心理学研究，24(4)，527-538.

(6) Susumu Yokota, Yasuyuki Taki, Hiroshi Hashizume, Yuko Sassa, Benjamin Thyreau, Mari Tanaka, Ryuta Kawashima (2013)

Neural correlates of deception in social contexts in normally developing children. Frontiers in Human Neuroscience,17.（2013年5月2日受理）

（７）Susumu Yokota & Mari Tanaka（2013）Development of deceptive behavior in children with Autism Spectrum Disorder. Journal of Special Education Research,2(1),1-9.（2013年4月20日受理）

（８）田中真理（2013）注意欠陥/多動性障害児・者における原因帰属に関する研究動向．教育心理学研究,61(2), 193-205.

（９）中山奈央・田中真理・山崎透（2013）注意欠陥/多動性障害児の自己認識におけるポジティブ・イリュージョン-自己評価・他者評価・他者に映る自己評価の比較から-, 児童青年精神医学とその近接領域.

(10)Mari TANAKA and Michika TAKIYOSHI (2012) Self-Cognition Development and Depressive Symptoms in Japanese Children and Adolescents. Japanese Journal of Child and Adolescent Psychiatry, 52,41-52.

(11)滝吉美知香・田中真理（2011）思春期・青年期の広汎性発達障害者における自己理解．発達心理学研究,22(3),215-227.

(12)李熙馥・田中真理（2011）自閉性スペクトラム障害者におけるナラティブ研究の動向と意義. 特殊教育学研究, 49(4), 377-386.

(13)田中真理・小牧綾乃・滝吉美知香・渡邉徹（2011）小学校の特別支援教育コーディネーターにおける「内的調整」機能に関する研究．特殊教育学研究,49(1),21-30.

〔学会発表〕（計４２件）

(1)鍋倉康平・川住隆一・田中真理（2015年9月）青年期ASD者の自らの発言による「気まずさ」への気づき－補償的方略による回答開始時間に着目して－．日本特殊教育学会第53回大会,p19-24, 仙台（東北大学）.

(2)永瀬開・川住隆一・田中真理（2015年9月）自閉症スペクトラム障害者のユーモア体験における刺激の精緻化－刺激の精緻化で想起する事柄に注目して－．日本心理学会,名古屋（名古屋大学）

(3)松崎泰・川住隆一・田中真理（2015年7月）思春期・青年期自閉スペクトラム症者の共感の困難さに関する研究－恐怖を抱く他者への個人的苦痛の生起要因に着目して－．日本発達障害学会, 東京.

(4)田中真理・滝吉美知香（2015年9月19日）PTSDの自閉スペクトラム症者における自己理解をめぐる心理臨床支援．日本心理臨床学会第34回大会秋季大会, 神戸.

(5)小林里華・米川勉・田中真理（2015年9月19日）職業意識と惨事ストレスが心的外傷後成長（PTG）に及ぼす影響に関する探索的研究－自然災害の支援活動に従事した組織的災害救援者を対象として－．日本心理臨床学会第34回大会秋季大会, 神戸.

(6)Tanaka Mari（22th, May, 2015）Study of parents' causal attribution for the behavior of children with autism spectrum disorder. 15th World Congress of the International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities, Hawaii.

(7)松崎泰・田中真理（2015年3月21日）思春期・青年期自閉スペクトラム症者における対人恐怖心性と恐怖を抱く他者への自己注視的役割取得の関連．日本発達心理学会第26回大会, P5-027, 東京.

(8)鍋倉康平・田中真理（2015年3月21日）青年期自閉症スペクトラム障害者における自らの失言による「気まずさ」の理解. 日本発達心理学会第26回大会, P5-035, 東京

(9)李熙馥・田中真理（2015年3月20日）自閉スペクトラム症児におけるフィクショナルナラティブとパーソナルナラティブの特性, 日本発達心理学会第26回大会, P2-34,東京.

(10)松崎泰・永瀬開・鍋倉康平・滝吉美知香・高田弘子・田中真理（2015年2月22日）心理劇的ロールプレイングを通したある自閉スペクトラム症者の自己理解と共感性の変容,日本心理劇学会第20回・西日本心理劇学会第40回合同大会, 42p, 福岡.

(11)永瀬開・田中真理（2014年9月22日）自閉症スペクトラム障害者のユーモア体験における意味性の評価(2)-意味性の評価理由の探索的検討-,特殊教育学会第52回大会、p4-H-8, 高知.

(12)松崎泰・田中真理（2014年9月21日）思春期・青年期自閉症スペクトラム障害者の恐怖を抱く他者への自己注視的役割取得. 特殊教育学会第52回大会、P3-G-4, 高知.

(13)菅原愛理・田中真理（2014年9月22日）自傷行動を示す障害児者の主養育者に対する支援-余裕のなさを軽減するソーシャルサポートの内容-,特殊教育学会第52回大会、P4-K-7, 高知.

(14)鍋倉康平・田中真理（2014年9月22日）青年期Autism Spectrum Disorder者における「気まずさ」検出-自らが発信者になる場合に着目して-,特殊教育学会第52回大会、p4-H7, 高知.

(15)横田晋務・田中真理（2014年9月22日）自閉症スペクトラム障害児における欺き行為と実行機能の関連,特殊教育学会第52回大会、P5-F-5, 高知.

(16)永瀬開・田中真理（2014年9月13日）

自閉症スペクトラム障害者のユーモア体験における意味性の評価(1)-意味性の評価がユーモア体験に与える影響に関する検討-,日本心理学会第 78 回大会、東京.

(17)田中真理・佐藤静（2014 年 8 月 25 日）高等教育機関における発達障害学生支援グループワーク， 日本心理臨床学会第 33 回大会， 横浜.

(18)永瀬開・田中真理（発表抄録投稿済, 2013 年 8 月） 自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア体験時の認知処理，日本特殊教育学会第 51 回大会，東京.

(19)松崎泰・田中真理（発表抄録投稿済, 2013 年 8 月） 自閉症スペクトラム障害児・者の自己注視的・他者注視的役割取得，日本特殊教育学会第 51 回大会，東京.

(20)李熙馥・田中真理（発表抄録投稿済, 2013 年 8 月） 自閉症スペクトラム障害者におけるナラティブの特性，日本特殊教育学会第 51 回大会，東京.

(21)横田晋務・田中真理（発表抄録投稿済, 2013 年 8 月） 企業における高機能自閉症スペクトラム障害者への雇用支援体制，日本特殊教育学会第 51 回大会，東京.

(22)菅原愛理・田中真理(2013 年 8 月日） 自傷行動が生起した場面における障害児者への関わりについての研究，日本特殊教育学会第 51 回大会，東京.

(23)永瀬開・田中真理（2013 年 9 月日） 自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア体験モデル, 日本心理学会第 77 回大会，北海道． ＊学会賞受賞

(24)田中真理・高原朗子 2013 自然災害を体験した障害児者とその家族の心理特性. 日本心理臨床学会第 32 回大会発表論文集、132. 横浜.

(25)Mari TANAKA・Nao NAKAYAMA (November 2-3, 2012) Self-Cognition in Children Diagnosed with Attention Deficit Hyperactivity Disorder : Level of awareness in assessment of self as seen by others and the illusion bias. The 1st Asian Congress on ADHD, Kim Koo Museum & Library, Seoul, Korea.

(26)滝吉美知香・佐藤健太郎・田中真理(2012 年 10 月 6 日） 中学校自閉症・情緒障害特別支援学級と校外の機関との連携に関する研究～ＮＰＯがコーディネーターとして機能する事例を通して～，日本ＬＤ学会第 21 回大会発表論文集，304-305，仙台

(27)松崎泰・田中真理（2012 年 9 月 29 日）ある自閉症スペクトラム障害児の共感性と自己理解の変容過程－心理劇的ロールプレイングを通して－． 日本特殊教育学会第 50 回大会発表論文集，P3-H-1，筑波.

(28)滝吉美知香・田中真理（2012 年 9 月 29 日）自閉症スペクトラム障害者の自己に関する研究－保護者から見た子どもの自己理解－． 日本特殊教育学会第 50 回大会発表論文集，P3-H-10，筑波.

(29)梅田真理・田中真理・佐藤健太郎 （2012 年 9 月 29 日）東日本大震災における特別支援学校の危機管理防災体制に関する調査研究（1）－被災時の学校運営「そのとき学校はどう動いたか」－． 日本特殊教育学会第 50 回大会発表論文集，P3-N-11，筑波.

(30)田中真理・梅田真理・佐藤健太郎（2012 年 9 月 29 日） 東日本大震災における特別支援学校の危機管理防災体制に関する調査研究（2）－震災による児童生徒への影響と、学校再開前後におけるストレス・マネジメントの観点から－．日本特殊教育学会第 50 回大会発表論文集，P3-N-10，筑波.

(31)永瀬開・田中真理 （2012 年 9 月 28 日）自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア特性の解明－構造的不適合の評価に焦点を当てて－． 日本特殊教育学会第 50 回大会発表論文集，P1-J-1，筑波.

(32)李熙馥・田中真理（2012 年 3 月 10 日）自閉症スペクトラム障害児におけるナラティブの特性と発達（3）－日記によるパーソナルナラティブに焦点をあてて－．日本発達心理学会第 23 回大会発表論文集，369，名古屋.

(33)鈴木大輔・滝吉美知香・斉藤維斗・田中真理（2012 年 3 月 10 日）人はどのような場面に「気まずさ」を感じるか－小学生から成人までの発達的検討－． 日本発達心理学会第 23 回大会発表論文集，367，名古屋.

(34)滝吉美知香・鈴木大輔・斉藤維斗・田中真理 （2012 年 3 月 10 日） 人はどのような場面に「気まずさ」を感じるか（2）－自閉症スペクトラム障害者における特徴－．日本発達心理学会第 23 回大会発表論文集，368，名古屋.

(35)田中真理・中山奈央・滝吉美知香・斉藤維斗 （2011 年 9 月 23 日） 注意欠陥/多動性障害児における自己意識の発達(8)－原因主体感覚を伴った役割遂行との関連から－．日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集発表論文集，392，弘前.

(36)田中真理 （2011 年 9 月 2 日） 高機能自閉性障害児の自己理解における支援－「ぼくは障害児？」の問いをめぐって－．日本心理臨床学会第 30 回大会発表論文集，25， 福岡.

(37)李熙馥・田中真理・佐藤健太郎・横田晋務・滝吉美知香・永瀬開・小口万梨子・松崎泰・栗田裕生 （2011 年 9 月 24 日） 自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか(8)－言語やりとりを中心としたユーモア課題における視線分析から－． 日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集，570，弘前.

(38)松崎泰・佐藤健太郎・６横田晋務・滝吉美知香・永瀬開・李熙馥・栗田裕生・小口万梨子・田中真理 （2011 年 9 月 24 日）

自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか(9)－言語的やりとりを中心としたユーモア課題における笑いの情動表出から－．日本特殊教育学会第49回大会発表論文集，571，弘前．
(39)佐藤健太郎・横田晋務・滝吉美知香・永瀬開・李熙馥・田中真理・栗田裕生・小口万梨子・松崎泰　(2011年9月24日)　自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか(10)－言語的やりとりを中心としたユーモア課題における評価的側面から－．日本特殊教育学会第49回大会発表論文集，572，弘前．
(40)横田晋務・滝吉美知香・永瀬開・李熙馥・田中真理・佐藤健太郎・小口万梨子・松崎泰・栗田裕生　(2011年9月24日)　自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか（11）－視覚的補助要素を含んだユーモア課題における視線分析から　－．日本特殊教育学会第49回大会発表論文集，573，弘前．
(41)滝吉美知香・永瀬開・李熙馥・田中真理・佐藤健太郎・横田晋務・松崎泰・栗田裕生・小口万梨子　(2011年9月24日)　自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか(12)－視覚的補助要素を含んだユーモア課題における笑いの情動表出から－．日本特殊教育学会第49回大会発表論文集，574，弘前．
(42)永瀬開・李熙馥・田中真理・佐藤健太郎・横田晋務・滝吉美知香・栗田裕生・小口万梨子・松崎泰　(2011年9月24日)　自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか(13)－視覚的補助要素を含んだユーモア刺激における評価的側面から－．日本特殊教育学会第49回大会発表論文集，575，弘前．

〔図書〕（計　12　件）
(1)田中真理・川住隆一・菅井裕行(2016)「東日本大震災と特別支援教育」,慶応義塾大学出版会,全229頁.
(2)田中真理（2015.12.25）　発達障害学生に関わる相談と対応,「もっと知りたい大学教員の仕事」，羽田貴史編著（分担執筆者28名）．ナカニシヤ出版，36-47.
(3)田中真理(2016年1月)「発達障害者と高等教育機関での支援」，日本発達障害学会監修，キーワードで読む発達障害研究と実践のための医学診断/福祉サービス/特別支援教育/就労支援，福村出版,30-131.
(4)田中真理(2013)「被災地における発達障害児者への支援」，長谷川啓三・若島孔文編著,震災心理社会支援ガイドブック．金子書房，151-175.
(5)田中真理(2013.3.27)　「青年期・成人期の人間関係・社会性の発達の課題と支援」，第１巻　社会性発達支援のユニバーサルデザイン，長崎勤・森正樹・高橋千枝[編]，日本発達心理学会「発達障害」分科会[企画]，金子書房,238-247.
(6)滝吉美知香・田中真理（2013）自己理解を深める心理的支援　小島道夫・田中真理・井澤信三・田中敦士編（分担執筆 10名）思春期・青年期の発達障害者が「じぶんらしく生きる」ための支援」，金子書房，20-32
(7)田中真理　(2012.4.10)　障害のある子どもたちをめぐる周囲にとっての学び，「東日本大震災と社会教育3・11後の世界にむきあう学習を拓く」,石井山竜平編著（分担執筆者23名），国土社,60-69.
(8)田中真理　(2012.3.10)　発達障害の支援，「よくわかる生徒指導・キャリア教育」，小泉令三編著,(分担執筆者15名),ミネルヴァ書房，142-157.
(9)田中真理　(2012.3.10)　特別支援教育とキャリア教育,「よくわかる生徒指導・キャリア教育」，小泉令三編著,（分担執筆者15名）,ミネルヴァ書房，188-191.
(10)田中真理（2012）　発達障害学生にかかわる相談と対応．田中真理・池田忠義・堀匡・佐藤静香著,「学生のための心理・教育的支援」．東北大学高等教育開発推進センター，69-82.
(11)田中真理　(2012.1.24)　震災と発達障害児　「発達障害児の生涯支援－社会への架け橋　「心理劇」－」，高原朗子編著,池田顕吾,石川須美子,楠峰光,後藤朋子,九州大学出版会,222-227.
(12)田中真理（2011）　支援をうけるということ．臨床心理学,金剛出版,11(4),576.

６．研究組織
(1)研究代表者
田中真理（TANAKA　MARI）
九州大学・基幹教育院・教授
研究者番号：７０２７４４１２

(2)研究分担者
井上雅彦（INOUE MASAHIKO）
鳥取大学・医学系研究科・教授
研究者番号：２０２５２８１９

片岡美華（KATAOKA MIKA）
鹿児島大学：教育学部・准教授
研究者番号：６０４５２９２６

滝吉美知香（TAKIYOSHI　MICHIKA）
岩手大学・教育学部・准教授
研究者番号：２６５９０２４８

渡邉　徹（WATANABE　TORU）
宮城教育大学・教育学部・教授
研究者番号：８０１１３８８５

高原　朗子（TAKAHARA AKIKO）
熊本大学・教育学部　・教授
研究者番号：２０２６４９８９